

小瀬川水系河川整備基本方針の概要

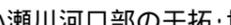
流域及び氾濫域の概要

流域の約96%を山地等が占め、流域内の人口・資産のほとんどが埋立・干拓地である河口部に集積。河口部は「大竹・岩国石油化学コンビナート」が発展し、瀬戸内海工業地帯の一部を形成

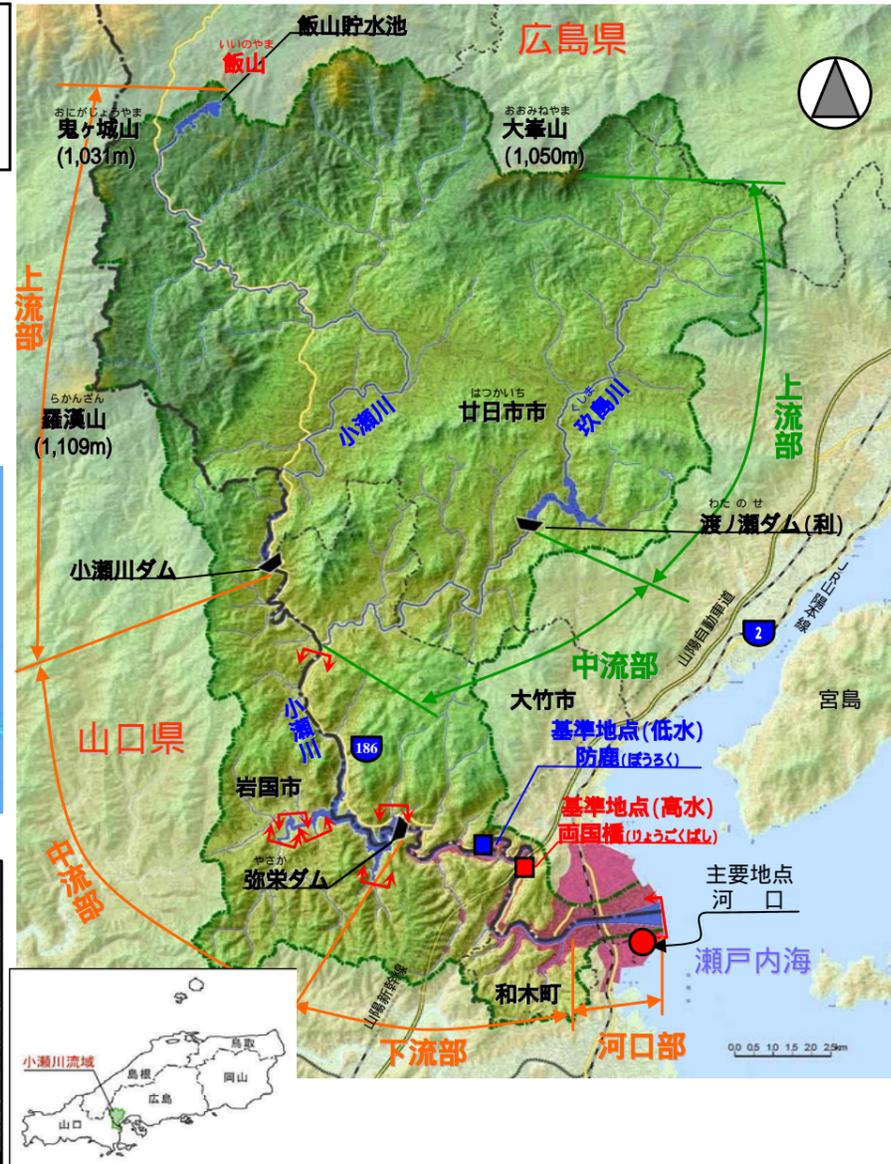
広島藩と長州藩の「国分けの川」として国境紛争の舞台であったほか、戦後の高度成長期に広島県と山口県の間で水利権を巡り対立し、昭和33年に建設大臣裁定により使用水量配分が決定した歴史

【流域及び氾濫域の諸元】

流域面積(集水面積) : 340km²
 幹川流路延長 : 59km
 想定氾濫区域内人口 : 約2万5千人

-  流域界
-  県境
-  市町村界
-  基準地点(高水)(低水)
-  主要地点
-  想定氾濫区域
-  鉄道
-  高速道・国道
-  大臣管理区間

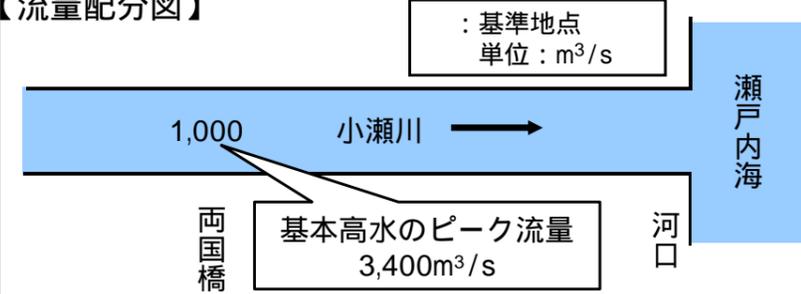
【小瀬川河口部の干拓・埋立の歴史】



災害の発生防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点両国橋で3,400m³/sと設定

【流量配分図】

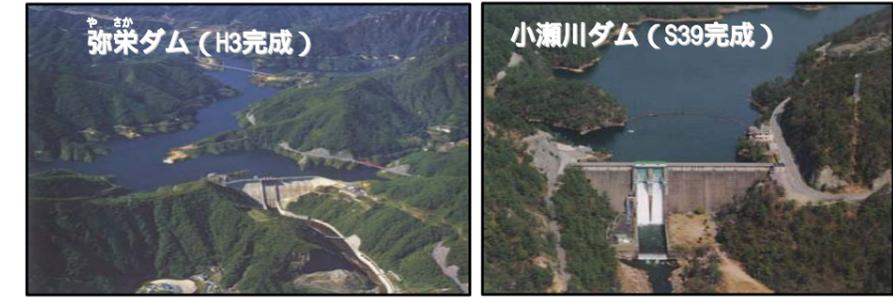


基本高水のピーク流量と計画高水流量の差分については、既設の洪水調節施設により対応
 小瀬川の豊かな自然環境に配慮しながら、堤防の新設や質的強化、河道掘削、護岸整備等を実施
 老朽化した堤防の改築や、耐震対策等に合わせ、高さや断面が不足している箇所の高潮堤防の整備を実施

【基準地点両国橋付近の引堤】



【既存の洪水調節施設】



河川環境の整備と保全

小瀬川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、人々にうるおいとやすらぎを感じさせる、豊かな自然と緑が織りなす良好な河川景観、清らかな水の流れの保全を図る

アユの産卵場となっている早瀬やオヤニラミが好む水際植生、キシツツジ等が生育・繁殖する河岸の露岩地、ゴクラクハゼ等が生息する河口干潟等、動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全に努める

弥栄湖をはじめ、水辺や河川敷がイベント、レクリエーション等、地域住民の憩いの場として利用されていることも踏まえ、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進するとともに、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図る



良好な河川景観(蛇喰磐) 露岩地に自生するキシツツジ 干潮時に出現する河口干潟 子どもたちの水遊び

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める

防鹿地点における流水の正常な機能の維持するための必要な流量は、通年で概ね7m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする